



CONTENTS

新年のご挨拶とお知らせ

分類別仕切り板を設置しました

おしえて★ライム博士

○「本はどういう順番で並んでいるの？」

お薦め図書

○橋爪大三郎『裁判員の教科書』

つぶやきライム

○第22回／本は楽しむもの

ライムのぼんやりトーク

分類別仕切り板を設置しました

【図書館コンシェルジュの活動】



本館2階にある自然科学系(分類記号400～499)の書棚に青色の仕切り板を設置しました。図書の分類とその位置が、ひと目でわかるように、おおまかな分類ごとにタイトルをつけて標記しています。

この仕切り板は現在、自然科学系の本棚だけの設置ですが、今後そのほかの分類の本棚にも少しずつ設置していく予定です。

皆様、あけましておめでとうございます。

新しい1年がはじまりました。今年度も残すところあと僅か。付属図書館もスタッフ、コンシェルジュ一同、心持ち新たにまい進してまいります。

さて、図書館では来年度(平成24年度)、**大幅な改修工事の実施**が予定されています。現在HPにて改修に関するアンケートを実施中です。ぜひ、皆様のご意見をお聞かせください。ほか、改修に関する詳細については決まり次第、ホームページなどで随時お知らせします。

それでは、本年もよろしくお願いたします。



図書館の素朴な疑問

おしえて★ライム博士

「図書館の本はどういう順番で並んでいるの？」

— 図書館には本の並び方にルールがあるの？

「島根大学附属図書館本館では、**NDC(日本十進分類法)**という日本でもっともポピュラーなルールを使用しています。図書館の本はこのNDCに従って並んでいるのです。

この分類法では、すべての図書をまず0～9の10個の分野におおまかな区分けをします。ここからさらに2桁目、3桁目、ピリオド(.)を挟んで4桁目……というふうに、図書の内容やトピックに従って細かく10ずつ分類していくのです。たとえば「ペンギンという動物についての図書」の場合、「自然科学(4類)→動物学(480)→鳥類(488)」というふうに、分類記号は決まっています。

— NDCで並んでいて良いことは？

図書が分類ごとに本棚に並んで

いるので、たとえばあなたがある本を探しあてたとき、そのすぐ近くに関連する内容を扱った別の本を見つけることができます。つまり、1冊だけでなく、複数の資料から包括的に必要な情報を探すことができるのです。下に載せた一覧表を参考に、自分のよく使う分野の分類記号とその棚の場所を覚えておくと良いかもしれませんね。

1F 本館

300(社会科学)
900(文学)

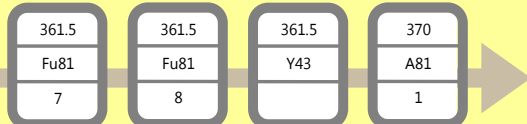
2F 本館

400(自然科学)
500(技術)
600(産業)
700(芸術)

1F 新館

100(哲学)
200(歴史)
800(言語)
000(総記)

— 図書の請求記号(例)
図書の背表紙にある請求記号は上から【分類番号(NDC)／著者名(頭文字)／巻数】を示しています。



お薦め図書

このコーナーは毎回様々な人が選んだお薦めの本を紹介するコーナーです。
今回は法文学部法経学科3回生の図書館コンシェルジュ推薦図書です。

裁判員の教科書

橋爪大三郎 【NDC:327.6/H38 1F ブックコンパス】

裁判員裁判について。始まったはいいけれども、どうにも実感がわかない。まあどうせ自分が選ばれることはないだろう。そう思っている人がほとんどではないでしょうか。ぶっちゃけて言うところの文を書いている本人ですらそう思うことがあります。最高裁判所が出したパンフレットでは、選ばれるのは約8500人に1人と書いており、なんだかぱっとしません。しかし、選ばれる確率は0ではないのです。選ばれることを期待して勉強しておく。選ばれないかもしれないけど勉強しておく。そんな時にこの「裁判員の教科書」はいかがでしょうか。

このようなタイトルがついていますが、著者は法律の専門家ではありません。裁判員制度についても本を書くにあたって勉強を始めたと本文にあります。そのため、法律の専門家とは違った観点からの意見もあり、裁判員制度を詳しく知っている人でも新たな発見があるのではないのでしょうか、また、裁判員裁判の要素が入っていても、裁判員裁判は「刑事

裁判」なのです。この本を読むことで刑事裁判の手続を勉強することも出来ます。裁判の常識を崩すような解説も加えられています。それは「裁判で裁かれるのは検察官である」という考え方です。初めて読んだ時、思わず何…だと…？と言っていました。これ以外にもこれまでの裁判についての知識を覆してしまうような内容がもりだくさんです。

裁判員制度が始まる前や始まってすぐの頃はメディアにも大きく取り上げられ、話のネタにもなりました。しかし始まってしばらくすると熱がさめたように思われます。国民参加が目的の裁判員裁判を私たちが忘れていたようでは本末転倒です。著者は裁判員裁判に対して賛成・反対どちらの立場も示していませんが、裁判員裁判を知ってもらうことで、裁判を良くしようとの考えを持っています。裁判員裁判についてやさしく解説し、問題点を取り上げているこの本を読むことで、裁判員裁判について考えると共に新たな発見があるかもしれませんよ？

(W.H)

つぶやきライム～図書館職員のメッセージリレー～

第22回 本は楽しむもの

好きな本を他人に語るなど、なにやら恥ずかしいものだが、勇を鼓してわが愛読書を紹介しよう。

まずは、R. P. ファインマン著『ご冗談でしょう、ファインマンさん』上下（岩波現代文庫）を理系の学生諸君や教師志望の学生諸君におすすめる。ノーベル物理学賞を受けた著者の生い立ち、学生時代の思い出、マンハッタン計画（原爆開発）や教授としての数かずの経験など、上下2巻に満ちあふれていた痛快な内容は、文系人間である筆者にも十分に楽しめた。日本滞在記では、今日でも指摘される科学教育（理科）の欠陥（記憶科目化）が古くからあったことを指摘している。

次は、レナード・ウィバーリー著『小鼠 ニューヨークを侵略』（創元推理文庫）。既に絶版だが古典的な傑作である。時代は核戦争に脅える冷戦時代（1954年初出）、北アルプスの一角に位置する長さ5マイル、幅3マイルの小国グラント・フェンウィック（何と国語が英語！）が、ワインを理由に大国アメリカに宣戦布告し、はからずも勝利する内容は、警句に満ちた文章とともに楽しめる。アメリカ人は妻に乱暴だというのが「アメリカ人は奥さんを同等に扱うのです。奥さんと相談なしになんの決定もしようとしません」ためであり、「結婚したら、わたくしの夫は男であり、わたくしを女であるようにしてほしいのです。そのほうが夫をうまく操縦できますからね」と見事に足下をすくわれる。

続編が3冊、それぞれ宇宙開発競争（月世界を征服）、国際経済（ウォール街を攪乱）、石油ショック（油田を掘りあてる）にグラント・フェンウィックの面々が立ち向かう、奇想天外な物語になっている。ぜひとも古書店で探してほしい。

本は楽しむもの。だまされたと思って、皆さんも1度読んでみませんか。

(Nagohiro)



ライム博士
みんな、あけましておめでとう。後期授業も残すところあとわずかとなったね。

みいなちゃん
おめでとうございます、博士。けんさくくんも……って、どうしたの、慌てた顔をして。

けんさくくん
そう、年あけて年度末……それすなわち期末試験の季節！レポートも然り！あわわわ。

みいなちゃん
なァんだ。いい機会だから、しっかり勉強なさい。

けんさくくん
そうするよ。それじゃ早速、図書館の本で……って、この本は付箋がベタベタ。こっちは鉛筆でアンダーラインが引いてある！なんだいこりゃ。

ライム博士
借りた本にアンダーラインは引かない、付箋は取ってから返却する。当たり前のマナーだよな。みんなで使うものだから、大切に扱って欲しい。